二〇一三年五月三日

里山を下り来る杣の手に蕨　雅流

渓流の岩にこぼるる懸り藤　雅流

二〇一三年五月二日

城門の一歩に仰ぐ若葉かな　たえこ

病室の窓辺彩る山躑躅　ぽんこ

二〇一三年五月一日

春天を二タ分けしたる飛行雲　三刀

二〇一三年四月三〇日

蕨採るなぞへの土手をたもとほり　雅流

存問の文添へ新茶着きけり　わかば

閻王の面にとどく新樹光　なつき

二〇一三年四月二九日

橋半ば水路の春を惜しみけり　さつき

火の山の裾野に摘みし蓬かな　こすもす

鱒育つ神の湧水引きし池　よし女

二〇一三年四月二八日

鶯の声絶え間なき深山路　さつき

奥嵯峨の風騒がしき竹の秋　宏虎

二〇一三年四月二七日

寺裏の山になだるる懸り藤　よし女

バス停の標傾く花菜畑　さつき

毎日句会みのる選・二〇一三年五月五日